

念頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。
昨年は、吟道賀堂流長岡京市吟詠会の事業にご協力をいただきありがとうございました。

今年も、尚一層のご理解とご協力、ご参加をお願いいたします。

年々会員が少なくなっております。会員の高齢化、趣味の多様化など多くの壁がありますが、本会の行動指針である【和】(会員のおだやかな交流)、【磨】(詩吟の研鑽、向上)【拡大】(会員拡大)を念頭に置いて、日々身体と心の健康増進のために、詩吟を楽しんでいきたいと思っております。会の事業活動としては【和】として会員同志の交流会の実施、【磨】として指導者成塾の開校、【拡】として一般市民を対象に「詩吟体験教室」を開いて詩吟の魅力を体験していただくことを計画しています。

今年、吟道賀堂流の創流 90 周年の記念すべき年です。姫路で行われる(12月1日)記念祝賀会には多くの会員の皆さんの参加を期待しております。また、一昨年は長岡京吟詠会創設 50 周年の記念すべき年でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため、お祝いすることができませんでした。そこで、今年10月27日開催予定の当会の「吟剣詩舞大会」の後、皆さんと食事を共にする祝賀会を計画いたします。ご期待ください。



長岡天満宮に参拝しました

長岡天満宮は、詩吟でよく詠う漢詩「九月十日」を作った菅原道真公を祀る神社です。詩吟ともなじみが深く、長岡京吟詠会も、創立者の千阪賀秀先生の献詩の碑が境内に建立されています。そして毎月25日(2月25日が命日)には、会の皆さんでお詣りをしています。昨年12月25日に最後のお詣りとして、神殿で詩吟を奉納し、会員の皆さんの健康と吟詠力向上をお祈りしてきました。(広報部)



新入会員ご紹介

松本 佳祐さん(まつもと けいすけ)

住所：向日市

入会：令和5年11月より

クラブ：長天詩吟クラブ

よろしく
お願いします

はじめまして。この度、入会をさせて頂きました松本佳祐と申します。私は元々歌を歌うのが好きだったのですが年々声が出なくなってきたので、発声の鍛錬をしようと考えていたところに辛嶋先生と出会い、詩吟の世界に飛び込んでみようと思い立ちました。まだ数回の稽古しかしていませんが、練習を重ねて技術を磨き、漢詩の世界に入り込んで吟じられるように努力して参ります。何卒よろしくお祈りいたします。(事務局)

シリーズ その1

【漢詩・和歌ゆかりの地・施設を紹介】

生まれ故郷の京都に戻って5年。最初はボケ防止のため京都観光検定を受けてみようかと軽い気持ちで始めましたが、詩吟をやることになり、詩吟教本をもとに、私のつたない京都観光文化知識を結びつけた紹介文を書いてみました。しばらくお付き合いください。

奥 堂秀信

詩吟『楠公子に訣るるの図に題す』の頼山陽は、日本人漢詩作家では作品数がダントツです。

広島県出身ながら、晩年52歳迄の10年間を鴨川の丸太町橋に近い三本木という所に、「山紫水明処」なる書齋を設けて東山を見て過したといひます。現在は、路地付き家の入口に石碑が立っています。裏に回ると、鴨川の景色は今も健在ながら、向川岸の京大病院の拡張で東山連峰の一部が、見えなくなった感がします。河原町通りを西北へ行くと、御所の向い側が新島会館一帯です。

『京都東山』の徳富蘇峰は、若くして国民新聞主幹、自由民権運動家で、のち政治家となります。また、『寒梅』の新島襄は、同志社英学校(現同志社大)の創始者です。

『富士山』の石川丈山は、家康の側近武将で、京都北東部の詩仙堂の他、JR 京都駅近く東本願寺の枳殻邸も造っています。

『海南行』の細川頼之の菩提は、桂川西の(地藏院)にあります。十六羅漢の庭が著名で、

細川元首相作成の襖絵が奉納されています。また、近くには天龍寺僧で律詩

『修学』の夢想疎石が再建した西芳寺(苔寺)もあります。『偶成』の雪村友梅と『花に対して旧を懐う』の釈義堂は夢想疎石と並ぶ五山文学家でもあります。桂小五郎・西郷南洲・坂本龍馬など、京都で足跡を残した漢詩人はとても多いのです。



山紫水明処の石碑

R6/1・2月の予定

- 1/20(土)【京都府連・府総連役員新年懇親会】
ホテルオークラ京都
- 2/18(日)【京都本部常任理事会】
丹波マーケス
- 2/24(土)【京都府連役員総会】
京都アスニー
- 2/25(日)【長岡京吟詠会会員総会】
こらさ交流室
(事務局)

会員報告記事 その1

コミセン文化祭に出場しました！！

わかたけに詩吟クラブ 長尾賀秀剣

日頃練習会場としてお世話になっている西向日コミュニティセンターの文化祭が11月12日にあり、発表の部に出場しました。6名で漢詩、今様、民謡などを発表しました。それぞれに簡単な解説を加えて吟じたのが大変好評でした。小さな会場に20数名の観客があり熱心に聴いて頂いて楽しく充実した時間があっという間に過ぎ良い体験をさせていただきました。



会員報告記事 その2

定期発表会で指導をうけて！！

下海印寺詩吟クラブ 土佐三佐子

定期発表会で特別指導を受けてとても勉強になりました。私は「胡陰君を尋ぬ」を吟詠しました。

その時ご指導・ご指摘を受けた主な事柄は、

- ① 最初の「水」の1音と2音の場合、1音の“美”を強く、そして1音と2音を少し切るようにして次の“ず”につなげること
- ② 子音から母音に変えるとき、子音でのぼしながら母音に変えるのではなく、子音からすぐに母音に変えて吟じる
- ③ 腹式呼吸で大きく息を吸い込み、へその下あたりで息を止め、徐々に発声する
- ④ 言葉の終わりはだらりとのぼさず、しっかり伸ばした後はずむようにポンとしめる

でした。横山先生からのこのご指導を受け詩吟の奥深さを痛感しました。これからも精進して頑張りたいと思います。ありがとうございました。

京都府吟剣詩舞道総連盟のおいち



今回は「京都府吟剣詩舞総連盟(京都府総連)」の歴史についてまとめてみました。

「京都府吟剣詩舞総連盟」の母体は、「財団法人日本吟剣詩舞振興会(以下財団と略称)」で、財団が設立されたのは昭和43年10月です。この年は明治100年の年に当たり、この百年を契機として歴史を見直し、日本の健全な発展を真剣に考えていこうという機運が各界に起こり、吟界においてもこの機運が高まり、そのため全国連合組織を作ろうという声が起こりました。そして次のような設立趣意書が作成されました。

『詩歌は人間の感情の自然の発露であり、優れた詩歌は人類文化の遺産であります。我々の先達はこの詩歌を吟じその吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目指して精進努力を重ね吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸術を育て上げました。この芸道は、礼と節をその心とするものであり、精神文化の高揚を急務とする今日の日本にとってますます盛んにしていかなければならないものであります。ここに明治100年を記念し、財団を設立し吟詠・剣舞・詩舞指導者の大同団結をはかつて全国連合会組織を作り、吟剣詩舞の進行普及を行い、国家社会の健全な発展に寄与したいと思います。』

この設立趣意書に基づき、文化庁に設立申請を行い認可発足となったのです。

その後、全国に財団公認の都道府県組織が結成され、京都府も昭和54年に「京都府吟剣詩舞道総連盟」の申請が認可され発足しました。

ほっと一息、休憩タイム
吟道賀堂流会詩に学ぶ

吟道賀堂流会詩(太刀掛 呂山)を詠う機会があり、ゆっくり素読をしてみますと、分かりやすく身近で学ぶことの多い詩だと感じました。中でも教訓的なのは頷聯の「宗派を継承して 故きを温ぬと雖も 時潮に順応して 新を廃せず」の部分です。古典文化を継承発展させてゆくに当たり、色んな面で新鮮な気構えで先を見て取り組む大切さを詠んでおられるように思います。長岡京吟詠会では新しい取り組みを進めている最中で、大変勇気を頂く詩だと思えます。



『ぎんまい長岡京』 編集室
編集委員長 尻枝賀秀道
編集委員 市丸、櫻澤、後藤、宮小路
※連絡・問合せ先 尻枝賀秀道
Tel: 075-954-9092